

復興天守閣と登閣証明書のデザインについて

大阪城天守閣について

豊臣秀吉が建てた初代天守は天正 13 年（1585）に完成しましたが、慶長 20 年（1615）5 月 7 日に「大坂夏の陣」で焼失し、徳川幕府が再建した 2 代目天守は寛文 5 年（1665）1 月 2 日に落雷で焼失しました。3 代目となる現在の天守閣は市民の寄付金により復興されたもので、昭和 6 年（1931）11 月 7 日に竣工し、今年の 11 月 7 日で復興 92 周年、満 92 歳を迎えます。

大阪城天守閣では、大阪城史上もっとも長命な現天守閣のさらなる「長寿」を願い、平成 30 年（2018）から、復興記念日にあたる 11 月 7 日を「天守閣の誕生日」と位置づけ、天守閣の復興に携わった人々の熱意や、天守閣が積み重ねてきた歴史について多くの方に知っていただく機会としています。

大阪城天守閣登閣証明書（令和 5 年 11 月 7 日）のデザインについて

こうらんぼこぎまきかなものじゅうしがた 高欄架木笹金物（十字形）

大阪城天守閣の誕生日（天守閣の復興記念日）に配布しております登閣証明書は、今の天守閣の外観を飾る瓦や金具などを参考に毎年デザインを変えています。本年は、8 階展望台の高欄（手すり）の四隅に取り付けられている「高欄架木笹金物（十字形）」をモチーフとしました。細長い笹の葉を十字に重ねた形状で、絵柄は、強い生命力に通じる唐草（つる草）と、桐文とならんで桃山時代の装飾品などに多くみられる菊文とを組み合わせました。



大阪城天守閣 8 階展望台
南西角の高欄架木笹金物（十字形）
劣化防止のため透明なカバーで覆われて
います。